



愛知県新城市 中山砦跡 発掘調査遺跡説明会資料

設楽原歴史資料館所蔵新城市立東郷東小学校平成六年度卒業生七十八名卒業制作『設楽原合戦図』より



↓長篠城跡

平成22年9月12日(日)

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
株式会社島田組

中山砦跡の調査概要

1. はじめに

中山砦跡は新城市乗本に所在する遺跡で、標高 100m から 120m の東西にのびる丘陵上に位置します。下の谷からの標高差は約 40m あります。

天正元年（1572）、徳川家康が長篠城を攻めた際に、南に位置する久間山砦とともに築き、天正三年（1574）の長篠合戦の際には、武田軍により使われた乗本五砦の一つにもなりました。長篠合戦時には、武田方の五味貞氏・飯尾助友・飯尾祐国・名和田晴継・名和無理之助他 240 騎が構えたとされています。

今回の発掘調査は、第二東名高速道路の建設に伴う事前調査で、平成 22 年 6 月より調査を行っています。

2. 調査成果

今回の発掘調査により見つかった遺構は、砦がある丘陵の東に位置する**土塁 01SA**、土塁に伴う**堀切 02SD**、その堀切 02SD 内に掘られた**井戸 03SE**があります。土塁 01SA は、堀切 02SD の底から約 2.0m の高さがあります。堀切 02SD の幅は約 4m あり、断面形は「V」字形になっています。堀切は 1 度掘り直され、堀切の北端には地山の岩盤を削り出した陸橋がありました。井戸 03SE は直径 1.75m、深さ 2.7m、断面形態は筒形で、穴の底付近には湧水があります。

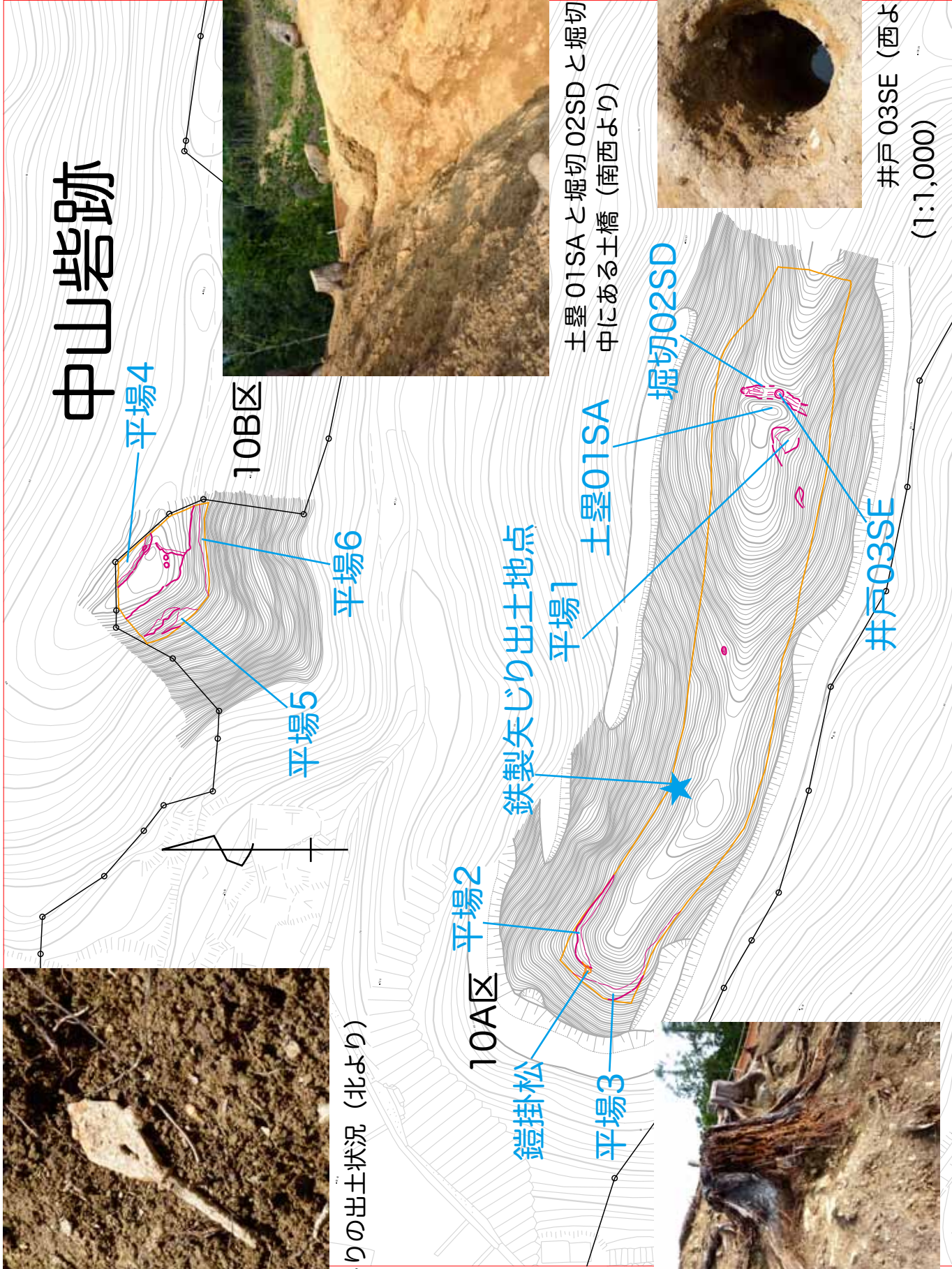


図1 中山砦跡の位置 (1:25,000)



鉄製矢じりの出土状況（北より）

中山砦跡



土塁01SAと堀切02SDと堀切02SDの中にある土橋（南西より）



鎧掛松（北西より）



井戸03SE（西より）
(1:1,000)

図2 中山砦跡遺構配置図（1:1,000）

3. 出土遺物

出土遺物では、鉄製の平根形矢じりが1点みつかりました。基部が折れていますが、長さ10.4cm以上、刃幅2.0cm、刃の長さ5.5cmあるもので、愛知県清須市朝日西遺跡から16世紀末頃の同様な鉄製矢じりが出土しています。

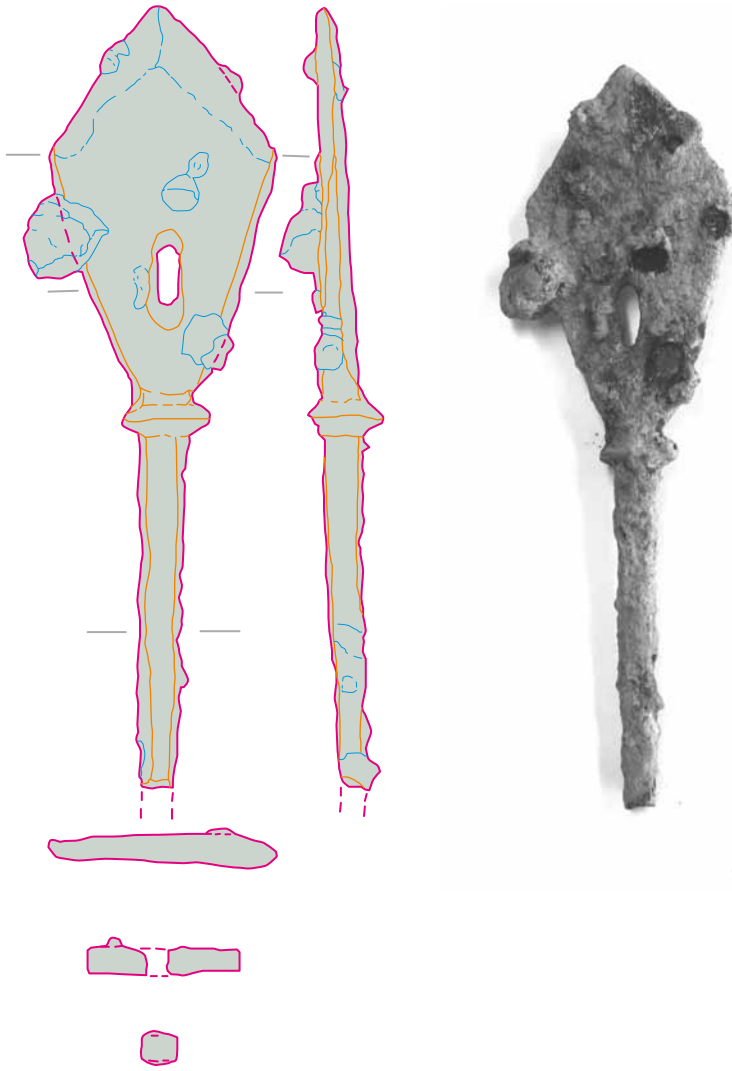


図3 出土した鉄製の矢じりの
実測図(1:1)と写真

4. まとめ

今回の発掘調査では、戦国時代の遺構を確認でき、また戦国時代の武器である鉄製の矢じりが発見できました。これまで絵図や古文書などの歴史資料から伝えられていた中山砦について、当時の戦いについての証拠を加えることができました。また、発掘調査で確認できた堀切跡では、1度以上の掘り直しが行われており、砦にこもった武将等には、砦を防御する意識が存在したことが推定できます。

図4 中山砦に聳える
ありし日の鎧掛松
(昭和49年1月
阿部伊三夫氏 撮影)

